

AgroKhab へようこそ！

LLC Amurzero ではロシアの国策の優先分野「極東地域の開発とアジアへの穀物輸出拡大」を踏まえ、2008 年よりウラジオストクの港を経由して日本へ穀物を輸出している。ロシア産穀物は主にその質の高さから競争力があるとされる。例えばオランダでは耕作地 1ha あたり最大 700kg の農薬を使用しているところ、ベラルーシでは 150kg、ロシアでは 20kg という統計が出ている。ロシアで農薬を使用する生産者は全体の 10% で、残り 90% は無農薬主義を掲げている。ロシアの農作物市場は環境に優しいという点で特徴的。日本へ穀物を供給している地域も技術的・気候的・環境的条件が揃っている。加工せずとも高品質で、規定の条件を上回るクラスの製品を提供可能。日本でも食の安全が重視されていることは熟知しており、日露双方の利益の一致において大きな可能性を見ている。

LLC Amurzero は新規プロジェクトとして、ハバロフスク州の先行発展地域（TOR）「ハバロフスク」で農作物卸売・流通パーク「AgroKhab」の設立に取り組んでいる。本プロジェクトの目標は、地元の農作物の受入、保管、加工の組織化による生産拡大だ。また、州産野菜の大部分を生産している兼業農家、個人農家、別荘生活者らが種子、肥料、農機一式等を使用できるようにしたい。

AgroKhab の農業複合施設は TOR に入居していることから、多くの特権を得ている。TOR の敷地内のインフラは公的資金で整備され、税制上の優遇措置も受けている。

農工業団地の建設は 3 段階で実施。事業総額は 32 億 7,000 万ルーブル。うち 20 億 3,000 万ルーブルの投資を誘致する。事業創始者の持ち出し額は 8 億 9 千万ルーブル。現在は設計作業が行われており、事業設計見積もりが作成されている。またロシア財務省の研究機関の監督のもとで事業計画と財務モデルが作成されている。総保管量 2 万 4,000 トンの野菜貯蔵庫建設で、第 1 段階の設備は双日マシナリー株式会社が担当。草案を準備し、極東・北極圏開発省から第 1 段階の建設許可が降りた。極東産野菜、果実、果物の貯蔵、深加工を含む加工の効率的な生産を確保するため、日本の技術とオランダの機器の導入が期待されている。

Amurzero のプロジェクトが地域社会にもたらす重要な意義とは。

AgroKhab の設立により、農作物の生産者から消費者まで単一チェーンが構築される。

地元の小規模農家（別荘生活者、小作農家、極東ヘクタールの受給者など）は農機、飼料、種子、肥料、植物保護材の購入や農作物の販売で支援を受けられる。AgroKhab はコンサルティングサービスの提供や極東農業研究所の専門家の誘致により、農家が先進的な生産技術を導入できるようにし、農作物市場を管理する。

AgroKhab の投資事業により、TOR「ハバロフスク」内では地元で栽培・生産された農作物（野菜、果物、果実、野生植物）の保管と処理、地元での販売や輸出が可能になる。高度な技術を使用した牛乳、魚、食肉の加工施設、小麦粉や飼料の生産用の倉庫も作られる。市場や AgroKhab で導入する電子プラットフォームでは、農民が自ら農作物を販売でき、買い手は地元産農作物を直接購入できるようになる。

農作物卸売・流通パーク AgroKhab の創設により、地域の統一ブランドや、農家向けの生産・マーケティングシステムを持つ新しい協力プラットフォームが形成される。どの農家も同じ技術を使えるようになり、生産の収益性を確保し、生産・加工の拡大により販売市場の拡大も見込める。仲介業者が淘汰され、消費者は商品を買求めやすくなる。



日本企業のビジネスチャンスについて。

野菜、肉、牛乳、魚など農・水産物の加工技術に加え、冷蔵・冷凍装置の導入に関心があります。また、投資家を誘致し、新たな農業および加工産業の創出、農作物、半製品および食品を輸出入する可能性を検討しています。